



社会福祉法人 恩賜財団

東京都同胞援護会

TOKYOTO ■ DOHO ■ ENGOKAI

同援だより

2014年 新春号(172号)

<http://www.doen.jp/>



新年のご挨拶

理事長 牧野 洋 一



明けましておめでとうございます。
新年を迎え、皆様のご健勝を心よりお喜び申し上げます。本年も法人施設の運営に当たり格別のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

おかげさまで、昨年、当法人の経営する施設においては、格別の事故もなく、利用者の皆様方に満足いただけるサービスを提供することができたものと思います。また、経営面においても適切な収支を確保することができました。これも、役員員一丸となって取り組んだ結果であり、また、日ごろからの皆様方のご理解とご支援の賜物と感謝申し上げます。

昨年は、アベノミクスと言われる大胆な金融政策により、日本経済は好転する兆しを見せました。今年はさらに進めて、民間投資と消費を拡大するための成長戦略が打たれるようです。そのなかで、規制緩和の議論が活発になると思われます。すでに、規制改革会議をはじめ様々な場面で社会福祉法人に対する厳しい指摘がなされています。「今、社会福祉法人に求められている役割」とはなんなのか、もう一度原点に立ち返り考えていく年になりそうです。

当法人では、今年、老朽化した大山保育園の建て替えが始まります。また、立川福祉作業所の建替え計画も進行する予定です。今年も引き続き有為な人材の確保と育成に努め、利用者の皆様に良質なサービスの提供に努めるとともに、地域の皆様に喜ばれる施設を目指して、一層努力してまいりますのでよろしくお願ひ申し上げます。

講演会 「困難な状況を突破する 管理者の役割と期待」



講師

株式会社 横浜八景島

取締役社長 布留川 信行

― 副題 ―

「横浜・八景島シーパラダイス」
経営に係わる困難な状況のなか
で行ったこと

『語ることはたやすいのですが、実行して結果を出さない限り、ただ、語るだけになります』

『職員全員反対ということでした。なぜ反対なのかということなんですね。一番は、今の状況を維持していきたいということなんです』

■ 変化が必然

私が話すことが、皆様のお役に立てるのか、ちょっと不安があります。私どもの施設の中に、ジンベエザメを入れたことがございまして、そのとき朝日新聞の記事になりました。それを「こらん」になられて、お呼びいただいたんだろうと思います。

横浜八景島シーパラダイスつて事業というものは、常に困難な状況をいつも目の前に抱えております。それは恐らく皆さんとも一緒だろうと思います。どんな社会活動においても、社会の中でいろいろな組織を運営する、もしくは人が動

次は海の食育ということで、今年取り組んでみました。パンフレットにございませけれども「うみファーム」という施設をつくりました。

それはどういうことかというところ、水族館が水族館だけでいいのだろうか。社会というのはいくらも変化していいのでは、存在する、継続することもできない。それから市民の皆様の満足度を上げることができない。そう考えているわけです。

うみファーム三日目。若いお母さんが、私どものインフォメーションにお礼においでになったんです。それは四歳の男の子のお母さんでした。

この子はお魚は二度も食べたことがなくて、こへ来て魚を釣って、バケツに入れて持っていくと、目の前でさばいてくれるわけです。そこで目の前で唐揚げにして、「これ僕のだよ」と出してくれる。

その前には食べるということについて、少し啓蒙しています。命をいただくことなので、食べる量だけとってくださいます。うみファームを与えています。

その子どもが、アジを釣って食べたときになんと「お母さん、これ、おいしい」と言ったというんです。小さいお子さん、まだ四歳ですから、ものを考えているわけではなく、頭の中で何か大きな心理変化が起きましたのであろうと感じるわけです。私たちはこれをやったことが、本当によかったなど皆で言いました。

水族館で海をきれいにしたり、当たり前のようにすけれども、また、魚を釣った

り、手づかみさせたり、とって食べる、そういうのってどうだという意見も全くゼロではなかったわけですが、それはそれで、やったことは本来目的としていたことには、大きく役立っております。

■ 未来像を示す

私ども民間企業ですと、企業の変化や施設の変化は、やはり、ちよつと二歩先のサービスを提供するということが非常に重要になります。それはみずから探していかなければいけないということになります。

探すんですけども、無理やりつくったものは、やはり無理があつて、それはお客様の心には全く届かない。

しかし、社会の変化で、社会が求めているもの。社会というのは人の集団ですから、多くの人々が今求めているものが、その時期に合わせて少し先回りして提供できると、多くの感動を呼び、多くの喜びに浸っていただけというように思っております。

同時に、やはり厳しい状況下にありますが、その中で事業を好転させなければいけないということになります。

そこで示したのは、私たちの施設の、会社の未来像です。それは先ほど来、申し上げているように、この会社の未来がどうあるかということをしつかりと申し上げました。そして、すぐにその事業に着手しました。語ることはたやすいのですが、実行して結果を出さない限り、ただ、語るだけになります。

■ 海の食育

その社会の変化、お客様のニーズに合った施設の変化が必要となります。これまで、学習意欲に応える癒されたい気持ちに伝える・直接触れる参加型CO2など環境をテーマにした施設などをそれぞれつくってきました。

企業活動というのは、ごくわかりやすく、単純なんです。企業が健全経営をして利益を出すということ。お客様が企業のいろいろな活動を通して、満足を得るということ。そこにお客様からお金をいただいて企業が成り立つという構造が成立します。

それからもう一つ、そこで働く従業員の皆さんの満足度。

お客様の満足度と、従業員の皆さんの満足度、そして企業の満足度が共存すれば、この三つが平等の幸福度をとれば、全員が必ず幸せになる、という話をしています。企業の未来も同じように語り、社員の皆さんの幸福度は絶対要件だと申し上げています。

■ 全員反対

次に、これはちょっと新聞記事になった事柄、ジンベエザメの話です。

「ジンベエを飼育したい」これは私の夢でした。人間は結構身勝手で、自分の希望は、社員みんなも同じだろうと思っていました。水族館事業をやっているのだから、そういうふうに思ったわけです。

一番大きな問題は水槽です。水槽がないよな。まさにないわけなんですよ。

それで、当社には大きなシヨープールがありまして、「あ、これがあるよな」と思いついて、社員のところへ行って、「いいところ思いついた。シヨープールに入れよう」と言ったわけです。そうしたらシーンとしているんですよ。うれしそうでもないなと思つて、何かよくわからない。

それで翌朝来たら、大勢で私のところに来るんですよ。本当に大勢で面と向かつて「ジンベエザメのシヨープールでの展示を反対」と。「イルカがジャンプしなくなりですよ」とか「出てきても怖がりですよ」とか、いろいろなことを言うわけです。これは多分合っているのだろうとは思っています。

もう、絶対に反対ということなんです。それも二人や二人じゃなくて、ほとんどチームの職員全員反対ということでした。

なぜ反対なのかということなんです。一番は、今の状況を維持していきたくないということなんです。当たり前なんですけれども、シヨープールではシヨエをやると思つている。シヨエがでなくなるのではないかということなんです。私たちのシヨエはお客さんにとつてすごく満足度の高いシヨエなんだ、そういうものを私たちはつくつていっているんだと、その自負心がめちゃくちゃあるわけです。そのためにもすごく一生懸命やつている、それですごくよくわかるわけです。

結果は何が必要かというところ、お客様がいかに満足を得るかということが結論であつて、シヨエをやることだけが全てではないよと私は思つていのですが、職員の立場からいうと、シヨエチーム、シヨエをやっているチームの人にすれば、すばらしいシヨエをつくつていっている、その概念から外れることはなかなか難しい。仕事で大抵がそうだろうと思つていますが、自分のやつている枠を外れた考えとか外れたことの示唆つてスツと受けとめられないこ

とが往々にしてたくさんあります。けれども横から見ると、物事つていつも変化しているわけですから、いつも自分がやつているとおりのやり方しかないかということそうじゃないんですよ。

私は変化というのが実はすごく好きで、変化するものだと思つていっています。変化しなければいけないと思つています。一番最初に申し上げましたように社会はものすごい勢いで変化しているわけです。それなのに自分のやつている行動範囲だけはいつも変わらなくていいのか、それつていつまでも変化しなくていいのか、というと、変化するほうがはるかに正しいはずなんです。

例えばイルカがジャンプしないとすれば、その原因は何なのだろうか、それつて解決できないのだろうか、ということにはなかなか踏み込まない。解決したとすれば、その先にどんなもつとすてきなものがあのかということには踏み込んでこない。

でも、それを言葉で説得するのはものすごく難しい。なぜならば、圧倒的な大義がないと説得は難しいと思つました。

大きな変化を遂げるときには、行おうとする人に相当大きな覚悟と、そこに共通する大義というのが必要なんだと思つています。企業経営においては健全経営というのは絶対の大義です。健全な経営を通して社員は社会貢献をしたり、モチベーションを上げたりすることが可能となりつます。そのことは会社という単位でいつと結構大きな大義になるわけです。

最後は、たまたま「やつてみようじゃない」と言つたやつがいるんです。それで「まあ、やつてみようか」という形になつたわけです。

ジンベエをシヨープールで飼育して一ヶ月ほど経つたとき、イルカシヨエができるのか実験を行うことになりました。それでイルカが出てきて、何とイルカがジャンプしたのです。そして本当に、みんな知らないうちに拍手をしていました。

そうは言つても最初のうちは、大きなジンベエザメが二頭いるわけなので、イルカも恐々という感じなんです。心理的にはよくわかりませんが、大きなものに対して少し、おれたちとは違うものがあるみたいな感じ。今はもうすっかりなれて何ともないですけれども、そんなことで最後は彼ら社員の思いもあつてそういうものができました。今、社員が何とつていっているかというところ、うちのシヨープールはすごいんだよ。ジンベエのいるプールでシヨエをやっているぞ」と言っているんですよ。社員にとつても誇りの施設に変化したということだろうと思つております。

■ 存在の意義

最後の話になります。東日本大震災は、これも私の社長活動というか会社経営の中で最も困難な状況のひとつでありました。

震災後一旦閉鎖したのですが、いつかは企業活動を再開しなければいけません。それで私たちも企業活動を再開することにしました。

わたしの夢

小茂根福祉園

AKB48のコンサートを見に行く。

(高橋 俊一)

みんなで仲良く、協力をして助け合って仕事を頑張ること。自分はフットサル大会で優勝を目指して頑張ること。

(金子 広樹)



「花」野島珠里

いろいろな仕事でできるようになりたい。

関ジャニ・AKB・西野カナ・嵐に会いたい。

お嫁さんになりたい。

キャンプでリーダーやりたい。

(池内 華子)

ケーキとコーヒー飲んで、ゲーム

(M3)をたくさんやりたい。

(清沢 雄)

活け花をがんばりたい。

北海道に旅行に行つて、カニ汁と

ラーメンを食べたい。

(西 未希子)

歌手になりたい。

(笹本 明宏)

ディズニースーにいったい行きたい。

(西澤 史乃)

パリに行つて観光したい。モンサ

ンミッシェルを観たい。

(古内 美優)

将来、福祉園を出て就職して一人

暮らしをしたい。

(高橋 万由子)

ウルトラマン CD



「ウルトラマン」清沢 雄

みんなが暮らしやすい世の中になりたい。

声をあげたい。

(甲斐田 晃弘)

きゅーぱみゅぱみゅに会いたい。

(島田 宗太郎)

小茂根に毎日通いたい。

(林 俊夫)

渋谷に行つてテレビに出たい。

(吉村 俊)

手さげ袋をたくさん作つて売り子さんになつて売りたい。

(佐々木 百合)

東京オリンピックに向けて、英語

をもつと学んで活かしたい。

(青野 高弘)

絵本作家になりたい。

福祉施設の園長になりたい。

一人暮らしをしながら小茂根に通

いたい。

(須藤 玲子)

「船」府川 博



私の夢

511の家

■ K・Eさん

私は、小さい頃から夢があります。それは、ピアノ奏者になる事が夢です。小さい頃から、ピアノを習っていて、先生はものすごく厳しく、指導してくれた結果、九年間続けられて高校の時は合唱コンクールの伴奏と卒業式の全校合唱などの伴奏を任せられる程度まで上達しました。

目標としては、オーケストラに入つて、ピアノを演奏する事が目標です。

まだ、そこまでの能力は有りませんが、上達できる様に、頑張りたいと思っています。

■ M・Yさん

小さい頃は、おかし屋さんと働くのが夢でした。今の作業所で、クッキーなど作っていますが、小さい時の夢が現実になるとは思いませんでした。

今は作業所で二生けん命やりがいをもつてがんばっています。グループホームに入つて、いろいろとまなびたいです。

■ Y・Sさん

私の夢は、心の底から幸せだなーと思える様な家庭を築くことです。

私には、二歳二か月になる子どもがい

ます。現在は事情があつて別々に生活しているけど、私が自立して、きちんとした土台がある環境作りをしながら必ず引きとつて子どもも幸せだなー、私も幸せだなーと思える様な家庭を作りたいです。

その為には目の前の事を着実に成し遂げていきながら自分に自信が持てる様になる努力をしていきたいです。こんな自分にでも、やれば出来るんだぞつてゆう自信を着けていきたいです。

子どもの鏡と迄大それた事は言わないけど、人並みにはなりたいたいです。

優しく海や空の様に心の広いお母さんになれるといいなつて思っています。子どもに愛情一杯のお母さんになります。

離ればなれだけど、いつかきつと必ず立派なお母さんになって迎えに行くからねツ!! それ迄待つていてねツ!! 現在を二生懸命生きるゾツ!!

■ S・Yさん

私の今の夢は、グループホームに入つて田舎の方に去年父親が亡くなつて、おはかまいりに行つていないので、おはかまいりにいくことです。あと母親に親こうこうをしたいと思います。お姉

ちゃんにはちゃんとあやまつて許してもらえようになりたいと思います。私がすぐくがんばつているところをみせたいと思います。

ここに来て私は、かわりました。これからも、がんばつていきたいと思っています。

■ F・Yさん

私の小さい頃の夢は子どもが好きなので、保母さんになりたかつたけどなれなかつたので、今は作業所で仕事を末永く続けて早くグループホームで自立をして作業所で仕事をしながら介護士の資格を取得して介護士になるのが夢です。

■ M・Tさん

私の夢は、保育園の先生になりたかつたことです。そのわけは、小さい子どもが大好きで、よく一緒にあそんでいたからです。私には妹や弟がいなくて、さびしかったからです。きょうだいがたくさんいる人がうらやましいと思つていたから。保育園の先生になつて子どもたちといっしょにあそんだり、勉強をしたりして行くのが見たいからと思つた。子どもを、そだてていくのはたいへんだと思つているけど、一日、一日と大きくなつていくのがよくわかる。私には子どもがいなくて、子どもたちを見ていると、かわいと思つているけど、自分でお腹をいためて、赤ちゃんを産んでそだてないで、おきざりにしたり、ぎやくたいをするというニュースを見ると私はなんでこ

とをするんだろうと思うし、赤ちゃんをほしくてもできない人がいるのにと思つてしまうから。

■ S・Cさん

私の夢は「読者モデル」になる事です。私は前に「芸能プロダクション」に入つてたけどやめてしまった事が今だに心の中引つかつてました。それをきっかけにまた自分の夢に向かつて進もうかなつて思いました。

それに好きな「読者モデル」がいます。それは「鈴木奈々ちゃん」です!!

鈴木奈々ちゃんはテレビで活躍するので私も負けたくないぐらいな力で読者モデルの道を頑張つてやろうと思つています!! 目指せ読者モデル…。頑張つて鈴木奈々ちゃん読者本にのりたいたいです!! ぜひ私に応援を!!

■ A・Nさん

私の夢は自分が描いたマンガを作り上げる事です。専門学校に通つてないし、特に資格を持つていないわけでもないでその道のりは険しいですが、絶対にやり遂げたい夢です!



サンライズ青山

ボランティア 細矢 弘子

平成十二年九月、社協からの依頼で、サンライズ青山で、学童書道教室に通い、今年十三年の歳月が流れた。当時は港区三田に在住、我が家から自転車で行く一時間の道程だった。私もまだ五十代後半、月に二回学童に会える事が楽しかった。

八年前、茨城県に移住の時に、現所長より「ぜひお願いします」と、お声をかけていただき、現在も続けている。

当初は、兄弟姉妹で来て下さる方が多く和気あいあいの書道教室だった。

時折、お母さん方も来て下さり、子ども達と共に学ぶ姿が、子ども達の励みになり、お母さんが分からないうで困っている時「○○ちゃん、お母さんに教えてあげて、○○ママの硯箱をあげてあげて」と声をかけると、喜々として動いてくれた事が今はなつかしい。

中には、外国人のお母さんも居て「子どもの連絡帳の書き方が分からないので教えて」と言われ、「日本語は難しいからね」と共に勉強の時もあった、なつかしい思い出である。



当時のお母さん方は、仕事から帰ってくると、子どもの様子を見ながら「先生元気？ お願いします」と声をかけて下さり、お母さん方とのコミュニケーションをしながら、教室での子ども達の様子を話したり、時には「こうなんだ、ああなの」と二人二役、仕事をしながらの大変さを聞く事もあったが、「お母さん、子育てのやり直しはきかないよ。今ちょっとだけ頑張ろうよ」と。

私は子ども達の何気ない会話や、話してくれる事を聞く、子ども達は反発しながらも母を思う気持ちが出せないほどに伝わり…。

中には「かあちゃんバツイチ」でもまた結婚したいんだって」と「○○君、それってどう思う？」なんて会話をした事もあった。

新しい住居に引っ越す事になった時は、嬉しさと淋しさがあったが、近辺に移られた子とは道端で会ったり、

あるお母さんは道路の向側から「先生、先生」と大きな声で声をかけて下さる事もあり、皆さんの明るさに私の方が励まされる事がたくさんあった。

新年会、もちつき大会、夏祭り等にも都合のつく限りは出席。もちつき大会では何度か相取り体験共に楽しんだ思い出は、私の宝物。

時折訪ねてくる子ども達の様子を職員の方から聞く事もあり、忘れないうで来てくれる気持ちが嬉しいネと。

ある家族からは、写真入りの葉書が届く。今年は成人した子どもや、新しく加わった家族の幸福そうな葉書に、あの時の辛抱があればこそその幸福ファミリーと歳月を思った。

現在は少しずつ学童も減り、昔のにぎやかさはなくなりましたが「一枚でいいよ、筆を持って書こうね」と言う

「うん」と素直に書く子、「今日はいいや、お風呂の時間だから」と顔だけ見せてくれる時もあるが、強制はしない。「いつか役に立つからね」と、お絵描きもOKの書道教室。絵を描くと「先生貸して」と朱墨の付いた筆を持って行って色づけする子もいる。どんな事も、経験する事で将来につながる。お正月には、紙一杯に書初を皆で、元気に、大勢の人が来てくれる事を願っている。

フジホーム

ボランティア 佐藤ミチ子

現在、私たちはフジホームで「ペーパーフラワークラブ」というクラブ活動をしています。内容は紙細工です。今までは地域の中で活動していましたが、この度フジホームさんからお声を掛けていただき、フジホームの利用者の方と月一回ですが一緒に楽しい時間を過ごしています。

紙細工とはいえ、少しづつ時間をかけ、精巧な作品に仕上げているかのように見えます。すべてオリジナルで編み出した技巧です。利用者の方にも喜んでいただけるように、クラブ活動の日には、利用者の方が組み立てれば良いように準備してきています。

多くの利用者の方が参加は出来ませんが、作り終えた花を見ながら、共に談笑することでお互いが癒されているように感じます。これからも出来るだけ続けていきたいです。



医療安全への願い

昭島病院
医療安全管理者・臨床検査技師
古谷 久重

私が、昭島病院の医療安全管理者になって約三年が経ちますが、何もかも手探り状態の中、院内の「何でも屋」的存在になろうと思つていきます。(先日の研修会では、「院内のカフェのような存在になりなさい」と習いました。)
「医療安全」と聞くと堅苦しいイメージですが、私の目指す「医療安全」は、スタッフが楽しく働くためにを基本に小さいことからコツコツと出来ることを行いたいと考えています。

〔医療事故〕

医療事故と聞いて皆さん何を思い出しますか？

医療安全が騒がれ出したのは今から約十五年前に起こった、四つの事故がきっかけになったと言われています。皆さんの記憶にまだ、残っていると思いますが、平成十一年Y市立大学附属病院「患者を取り違い手術」、二月都立病院で「血管内に消毒薬を誤注入」、平成十二年二月

K大学病院「人工呼吸器の加湿器へのエタノール誤注入」、四月T大学病院「静脈内への内服薬誤注入」、「そんなことが、まさかおこるの？」と思われるような事故が、大学病院や都立病院で続けておこり、連日マスコミでも取り上げられ、医療事故は社会問題となりました。それから数年後には、全国に医療安全の体制が整えられ、事故の予防は医療界のみならず社会の課題となり、病院に医療安全管理者を配置するようになって約十年になります。確かに医療事故に関わるマスコミの報道は急増した平成十五年頃をピークにその後は、減少しておりますが、本当に現場における事故は減っているのでしょうか？

〔医療安全活動〕

「To Err is Human」人は誰でも間違えると言われており、事故を「ゼロ」にすることは出来ないが少なくすることは、可能です。そのため、ヒューマン・エラーの誘発と事故防止に対する職員の意識改革を中心とした対策を基本に行っています。毎月、医療安全委員会では、「医療安全ニュース」、「他施設の事例報告」を発行し、「マニュアルの改善」、「ベッド使用注意パンフレット」や「ころば

ぬ先のパンフレット」などを作成し周知しています。

また、院内では、①患者スリッパ禁止、②男子トイレの「呼出」ボタンの位置が高いこともあり倒れた時にも対応可能とするための押せる紐付け、③衝突防止のミラー付け、④エレベーターを迷わず見つけられる貼り紙、⑤ドアを開けた時の衝突防止の貼り紙など行ってきました。

病院にお越しの際は、何処にあるのか見つけて下さい。

今年度、医療安全委員会の最大のイベントとして「災害訓練」を二月に病院全体で行う予定です。

〔今後の計画〕

今後、五年から十年で日本の医療、社会はガラッと転換すると言われていきます。いわゆる二〇二〇年問題と呼ばれています。

病院や施設はどのように変貌するのか？ 医療安全をどのように行っていくべきなのか？ 課題は山積みですが、病院・施設で多い事故として転倒・転落やベッドに関わる事故があります。その事故は、看護師やスタッフの見ていないところで発生するケースも多く、非プロセス型の事故のためサービス提供側の改善のみでは効果を望むことが難しいです。自宅や道

で転んだときは「足腰が弱って来たし、気を付けない」とと本人も家族も考えます。一方、病院や施設に入り、そこで転倒が起こった場合は、家族や本人は、病院・施設は安全な場所と考えている方が多いため、その安全な場所で事故が起きると、同じ転倒でも患者・家族は怒りにも似た気持ちになる場合もあります。

他方、病院・施設のスタッフにはその感情を必ずしも理解出来ず、双方で温度差がでることになります。病院では、患者・家族と協力して(上記の「ころばぬ先のパンフレット」などを使用して)転倒対策を行っていきます。今後施設のスタッフの方とも一緒にやっていけたらと考えています。医療安全に対する基本的な考え方、病院で前述したような色々な対策の共有化を図っていけば、施設全体の医療安全対策にも貢献出来るのではないかと考えています。

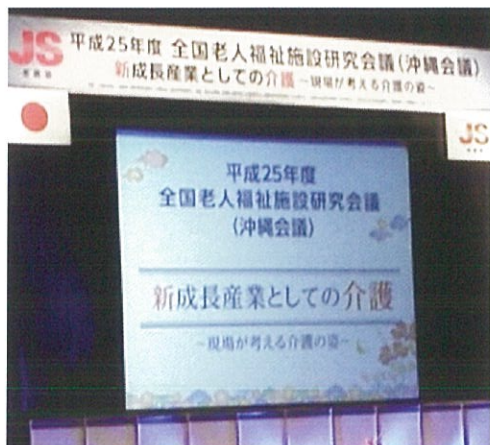
施設と病院が連携することによって、病院ばかりでなく施設全体が少しでも安全な場所になるよう今後も頑張っていきたいです。



平成二十五年 全国老人福祉施設研究会議 沖繩会議に参加して

原町ホーム
副施設長 浅見 文隆

平成二十五年十二月十八日から十九日に亘り沖繩県コンベンションセンターをメイン会場に研究会議が開催されました。那覇市の各会場で全国の高齢者支援施設関係者等が約二千名参加し、活発な議論と研究の発表が行われました。今回の大会のメインテーマは「新成長産業としての介護」で現場が考える介護の姿でした。



【基調講演】

全国老人福祉施設協議会の榎田和平氏より、「持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革の推進に関する法律案」における介護保険制度に関する事項についての講演がありました。

特に、地域包括ケアシステムについて、団塊の世代が七十五歳以上となる二〇二五年を目標とした方向性の詳しい解説がされ、特別養護老人ホームがこのケアシステムの中心的な役割を果たすべきとの主張がされました。

【課題提起】

老施協、鴻江圭子氏より、「科学的介護の実現と高齢者施策の展望 認知症」のテーマで課題提起がされました。

○介護保険を取り巻く状況

- ・厳しい経済状況
- ・都市部の高齢化
- ・重度化の進行、認知症高齢者の増加
- ・高齢者の単身、夫婦のみ世帯の増加
- ・人材不足

○特養、養護、軽費老人ホームにおける認知症対応

- ・各施設における認知症高齢者の入居状況

また、老施協の取り組みとして、科学的介護の実践、推進についての説明がありました。

【講演1】

「平穏死のすすめ」の著者である特養芦花ホーム医師の石飛幸三氏より、実践されている看取り介護の貴重な体験談をお話いただきました。

「最期の迎え方はその人のものです。画一的なものではありません。残った時間の過ごし方を少しでも本人希望に近づけることが、それに関わる者の役目である」ということを強く訴えられました。

【分科会(科学的介護の実践と可能性)において 原町ホーム発表概要】

私どもが、日々提供しているケア支援の効果は主観的、定性的に把握されているものが多く適切に評価できているのか、かねがね疑問に感じていました。

原町ホームでは平成二十年より利用者のQOL向上のためハプティックセラピーを実践しています。



そのセラピー実施時に、ヘルシーという器具で効果を測定しました。ヘルシーとは皮膚に発生する電気信号(人が喜びや悲しみ等を体験すると生じる信号)を測定する器具です。

①ヘルシーで計測、②ケア支援の効果做客観的、定量的なデータとして取得、③効果を検証。

この結果、客観的データ上、ハプティックセラピーの効果が確認できました。

職員からは今まで実施してきたケアの効果が目に見える形で把握でき安心した。との声がありました。

今後は、提供しているすべてのケア支援を改めて定性的、定量的データに基づいて評価を行います。そして、客観的データに基づいたケア支援を実践していきます。それこそが私たちの求めている科学的介護となるという内容の発表をさせていただきました。



母子生活支援施設の役割と期待

サンライズ万世

施設長 鎌田 弘道

第五十七回大会は「これからの母子生活支援施設のあり方を考える」をテーマに開催され、DV被害者支援・外国籍母子への支援・アフターケア・保育問題・母子の権利擁護、暫定定員問題・施設改築などの取り組みや課題の共有化を図りました。

「現代の社会背景」

母子生活支援施設の果たすべき役割と機能が多種多様であり、根拠となる法・制度が多岐に渡り複雑に絡み合っています。また、利用者（母子）が施設を利用する理由もDV（ドメスティックバイオレンス）、社会的孤立（貧困）・障害・疾病など様々であり、就労することが困難なケースも多く、就労が自立生活の全てではない社会背景となっています。

このような状況下、個々の利用者に最適な支援（サービス提供）を実践するためには、職員の専門知識・

技術の向上を図る人材育成が不可欠です。保護的機能と自立支援の施設であり、且つ、関係機関や地域の社会資源と効果的な連携を図り、課題を抱えている地域のひとり親家庭（母子・父子）の支援も重要な役割・機能と明記されています。

「今後のビジョン」

安定財源の確保として、幼児教育・保育・子育て支援の質と量の充実を図るため、今回の消費税率引き上げによる〇・七兆円＋〇・三兆円＝一兆円超の財源確保が課題とされており、次年度の当初予算・サービス提供など、どのように対応するか検討されています。

全国母子生活支援施設協議会では家庭をめぐる問題の複雑化、社会状況やライフスタイルの変化を踏まえて、①母子生活支援施設倫理綱領の具現化（母子の権利擁護の保障）、②運営指針の周知徹底

と第三者評価サービスの受審（開かれた施設運営）、③暫定定員問題の解消（存在意義・特性と重要性）、④ひとり親支援を通じての地域福祉（地域住民・他機関とのネットワーク・虐待や経済的不安の解消）、⑤母子生活支援施設のビジョン（社会的養護の課題と将来像）、この五項目が今大会でアピールされています。

「地域支援と人材育成」

当施設は、同一敷地内に保育園と児童養護施設、高齢者福祉施設や病院などがあり、小学校も隣接している立地特性を活かして、私たちには何ができるか、どのような支援が可能か、検討を重ねていく必要があります。

例えば、当施設では心理相談担当者の配置を充実して、課題を抱える地域のひとり親家庭への心理相談を実施しています。

子育て支援など公共機関へ相談するケースが多い中、福祉施設としても安心して信頼のできる相談支援体制を図るため、関係機関（福祉事務所・保健所・病院・教育・自治会・福祉施設など）とのネットワークの強化によるニーズ把握が必要です。そのためにも、職員の専門的な知

識・技術の資質向上、些細な問題に関しても気付き、親身になって相談できる豊かな人間性、人の痛みが分かる感受性を養うことが重要だと思います。

現在、小さな歩みではありますが、様々な関係機関と連携の強化を図り、地域に根ざした福祉施設として、地域住民の皆様が期待する具体的な成果を実現するため、関係機関との連携からそれぞれの機関が責任を持つ関係構築を目指しております。

この目標を達成するため、今後とも皆様のご指導、よろしくお願い申し上げます。



ご 寄 付

◇内田祥二◇越智安之助◇川鍋
 實◇小山寿◇斉藤恵美◇武田
 直也◇戸塚洋子◇中野雅義◇
 名久井佳治◇沼能喜之助◇末
 延清志◇森谷順蔵◇山内悦◇
 池田康子◇(社福)同胞互助会
 理事長 蓮村幸兌◇(社福)村山
 苑職員有志二同 代表 杉山陽子
 ◇(社福)東京リハビリ協会 理
 事長 宍戸貞夫◇NPO法人ひ
 だまり 代表理事 深井葉子◇
 昭島ガス(株) 代表取締役社長 平
 畑文興◇昭島サンセルフ 高野裕
 志◇昭島市自治会連合会 第四
 ブロック顧問 測上良子◇昭島市
 自治会連合会第四ブロック 大芝
 登◇昭島市自治会連合会第四
 ブロック長 降矢新吉◇昭島市赤
 十字奉仕団 団長 和田とく子◇
 昭島市東部自治会 会長 横田孝
 至◇昭島市民生児童委員協議
 会◇昭島市老人クラブ中神仲よ
 し会 会長 山田恒男◇昭島市老
 人クラブふじみクラブ 会長 千田
 寿夫◇東部地区 秋山友子◇都

後 援 会

菅中神第二団地自治会 会長 山
 田恒男◇富士見ヶ丘団地自治会
 会長 千田寿夫◇サン薬局◇手
 芸の店トモヤ◇ネオハルト(株) 代
 表取締役 南浩一◇羽衣クリーニ
 ング 代表取締役 大久保憲一◇
 橋本工務店 代表 橋本誠一◇扶
 桑建設(株) 代表取締役 星野宗
 保◇マツダドライサービス◇水村
 肉店◇(有)メグミ生花店◇洋品店
 ウエノヤ◇(株)共伸インテリア 代
 表取締役 小池護◇(株)肉の三橋
 ◇(株)三ツ矢 代表取締役 中村暢
 克◇(株)やまとモーターズ 代表取
 締役 石原康司◇(株)和光電気代
 表取締役 本多康利◇(有)ラッコク
 リーンサービス 代表取締役 佐々
 木憲寅



後 援 会

◇内田祥二◇小田昭子◇川杉萬吉
 ◇久野顕次郎◇鹽物孝司◇佐々
 木みつる◇鮫島恭江◇高橋暢子◇
 武田とよ◇土屋勝◇永井允子◇中
 村健一◇名久井佳治◇本田ふき子
 ◇南雲栄一◇横島房子◇松原誉◇
 松本三樹夫◇山内悦◇昭島ガス(株)
 代表取締役社長 平畑文興◇昭島
 サンセルフ 高野實◇浦野工業(株) 浦
 野静夫◇エーエスシー(株)◇エコア(株)
 ◇桶川工業(株)◇おしゃれの店ひら
 まつ◇おしゃれ洋品ウエノヤ◇加寿
 谷不動産(株) 粕谷敏夫◇風間造園
 (株)◇(株)共伸インテリア◇居宅介護
 サービスえがお◇桑都ビル管理(株)
 ◇シダックスフードサービス(株)◇昭
 和の森エリアサービス(株)◇田所青果
 (株)田所金治◇田中青果店 田中潔
 ◇東京厚生信用組合本店◇東京
 中央食品(株)◇東京冷機工業(株)多
 摩営業所◇戸山商事(株)◇長崎三
 丁目町会 会長 足立憲昭◇日清医
 療食品(株)◇ネオ・ハルト(株)◇原町三
 丁目町会 会長 土屋勝◇ヘアパルお
 かもと 岡本廣◇ヘルシーフード(株)

◇マツダドライサービス◇雪印メグ
 ミルク下坪牛乳販売店 下坪唱三
 ◇横田屋米店◇(株)相田土井設計
 ◇(株)石塚家具店◇(株)菊屋商店◇
 (株)木の里工房 木薫◇(株)金文堂洋
 紙店◇(株)コイスマ◇(株)サンメディ
 カル◇(株)世田谷酸素商事◇(株)桃
 源堂◇(株)共伸インテリア◇(株)ハー
 ティーマネージメントダスキン松原
 支店◇(株)日立ビルドシステム東京
 総支社多摩支店営業グループ◇
 (株)フジミ◇(株)ミートショップの鈴政
 ◇(株)三ツ矢 代表取締役 中村暢
 克◇(株)安江設計研究所◇(株)豊明
 ◇(株)レクトン◇(有)アタック◇(有)新
 井精肉店◇(有)イナダオフィスサ
 ライ◇(有)肉の山高◇(有)にんや杉田
 商店 代表取締役 杉田武◇(有)浜
 長水産◇(有)原島組◇(有)森川電気
 商会◇(有)リハビリサービス

ご支援ありがとうございました。

(敬称略順不同)

※「同援だよりに名簿掲載希望欄」
 へ〇印をご記入頂いた方のみ掲載し
 ております。

し
せ
じ
通
信

◆みどり保育園◆

同援みどり保育園では、以前からクッキングや栽培、収穫等の食育活動を行い、子ども達に食の大切さを日々伝えていきます。その活動の中心となっているのが食育委員です。現在、各クラスの代表者と栄養士計九名で活動しており、主な活動内容は、食育便りや新聞、冊子の発行です。子ども達や保護者の方に食育の大切さを伝える為にアイデアを出し合い、楽しく活動していきます。

昨年、「子ども達が楽しみつ、食育に興味を持てるようにする為にはどうしたら良いのか」ということを話し合いました。そして、子ども達が苦手な食べ物を題材とした劇を行いました。子ども達が好きな絵本の「ピーマンマン」です。内容は、好き嫌いをしている子ども達にバイ菌が襲いかかった所を、ピーマンマンが倒し、野菜を好きになるというものです。子ども達に何を伝えたいかを明確にし、しっかりと台本に入れて職員が全力で演じました。子ども達の反応はとても良く、この食育劇後、子ども達の口から「ピーマン食べるよ」や「バイ菌嫌だから好き嫌くない」等の声



が多く聞きました。紙面や口頭では子ども達に食育を伝える事は難しいですが、劇を行った事で子ども達の食に対する姿勢に少し変化が見られました。そして今年は二回の上映を行い、今回ピーマンマンの劇に新たな食材の「トマトちゃん」が加わりました。また、劇だけでなく子ども達も参加できるような食育クイズを行い、景品として食育シールも作成し配布しました。保護者の方にも一緒に見て頂き、反応も良く、「また見たいです」という言葉を多く頂きました。劇後は、玄関に親子で考えて答えるクイズコーナーの設置や、バザーのイベントにもピーマンマンを通してシールを配布し、子どもから保護者の方に食育を伝えていきました。今後はシリーズ化にして、食の大切さを引き続き伝えていきたいと思えます。

(堀井 記)

◆ひかり苑◆

ひかり苑の食事は直営方式で、サンホームと共同調理を行っています。平成二十二年一月より郷土料理を月一回利用者に提供しています。はじまりのきっかけは、調理員の「利用者に郷土料理を作ってあげたい」「ひかり苑の利用者は旅行に行く事も難しい」「食欲不振時もあるのかしい郷土の味を食べれば食欲も増すのではないか」という思いからでした。最初は山梨県「ほうとう」からはじまり、沖繩ソーキそばや秋田きりたんぼ鍋など、試行錯誤しながら時には大失敗もありつつ、平成二十五年六月にやっと四十七都道府県を制覇し、今では二巡目に入っています。

郷土料理は利用者に大好評で、中でも印象的だったのは、傾眠がちな長崎出身の方が長崎ちゃんぽんを食べた時、「うまかあ、うまかあ」と目を細めながらうれしそうに食べ、さらに地元(長崎)の歌を楽しそうに歌っていました。また、意外に利用者どうしの会話のきっかけにもなりました。東京都の郷土料理の時、高尾山の写真をのせたランチョンマットを見て「私こ行ったのよ」「ケールブルカーがあつてねえ。」「景色がいいわね。」などの会話が始まり、楽しそうなプチ女子会が開催されたこともありました。さらに、配膳する職員も「今日は〇〇県の食事みたいですよ」とあらかじめ興味を引

同 援 俳 壇

昭島荘 道句会

林檎むき

思い出してる母の声

加賀屋美智子

芒取り

本にはさんで一頁

河内通子

郷里の

林檎もとめてスーパーへ

神 きぬゑ

人生の

将棋と歩む秋の雲

池沢香雄

夕暮れに

月光の刻おとずれる

石塚フキ子

青空に

綿菓子のような秋の雲

榎本博吉



いたり、観光地の話題で盛り上がったたりとさらに楽しみな食事となるような工夫したり、コミュニケーションをとったりしています。そのせいか、今では利用者、職員問わず次回献立のリクエストを受けることがあります。

食事は我々にとって栄養を得るひとつの方法です。ただ、楽しいと思える食事ではなくては食べる気にもなりません。楽しい食事をたくさん食べて健康を維持できるよう、これからも職員一同で楽しめる食事の提供を心がけていきたいと思えます。
(相馬 記)

◆サンライズ武蔵野◆

「キャンピング」って知っていますか？ キャンピングは渓谷を体ついで水の流れと一緒に下って行くスリリングなスポーツです。サンライズ武蔵野では、そのキャンピングとラフティングを夏のキャンプで体験しました。

スタート地点に着くまで岩肌を二時間以上登るのは大人でも大変でしたが、みんなで繋がってジェットコースターのようになり、岩の上から飛び込む「ちょっと怖くて、凄く楽しい」体験に大人も子どもも大興奮し疲れも忘れて楽しみました。

今年度、このような企画をしたのは、子ども達に行事でどのようなことをしたいか聞いたところ、「水遊びがしたい」、「海に行きたい」、「バーベキューがしたい」という意見が多く出たからでした。そこで考えたのが「ウォータースポーツを楽しむ、バーベキューをしてテントに泊まる」プログラムです。

サンライズ武蔵野では、中高生が増加したことから職員主体のプログラム作りから子どもたち自身が考え中心となる行事の取り組みを行っています。自分たちがやりたいことを実現化するためにはどうしたら良いか、無理だとあきらめないで一緒に考えてみようよと、子ども達に提案しています。

そこで今回のキャンプでは、ひとりひ



とりが役割を持ち参加することになりました。花火やゲームの買い出し係、しおり作り係、食事係と必ず係を持ち準備を進めました。キャンプ中は、「汲み取り式のトイレが嫌だ」、「虫がいる」と普段の生活とのギャップに困ったり、バーベキューの時に突然の豪雨に見舞われたりする等のアクシデントもありました。しかし、いつもなら「疲れた」「帰りたい」と弱音が出ることも多いのですが、今回のキャンプでは途中で「やめたい」と言う子どもは一人もおらず、最後まで楽しみ充実感を味わったようです。

中高生の増加や年齢層が広がったことなど、行事や子ども会での課題は多いのですが、これからも子ども達が主体となるような行事作りを目指していきたいと思えます。
(水井 記)

万世敬老園 あらさみ旬会

多彩なる

小菊香りぬ路地の庭

月岡久三

ワラ屋根に

柿の実赤く風情そえ

太田義子

新米と

云われ思わずかみ直し

宣 準子

枝豆を

口にほおばり乾杯す

佐藤玲子

一つ落ち

一つ生まるる露の玉

門井正樹



祝表彰・感謝状受賞者

多年の功績とご協力に対し、次の方が表彰されました。
おめでとございます。

◎ 東京都知事感謝状

ニューフジホーム
施設長 神田 祐一
サンライズ青山
主任 母子支援員 伊藤 知子

◎ 全国老人福祉施設協議会表彰

ニューフジホーム
介護職員 平塚 正人

◎ 東京消防庁昭島消防署感謝状

つづしが丘保育園
さいわい福祉センター
事務員 廣瀬 敦子

資格取得の紹介

左記の方が資格取得しました。
日頃の業務に生かして活躍を期待します。

【介護支援専門員】

ライトホーム
介護職員 森 素子

全国老人福祉施設研究会
で受賞して

ニューフジホーム
介護職員 真野 学
介護職員 細野 智子
介護職員 田口 恵子

この度全国老人福祉施設研究会
議分散会「医行為の実践」部門にお
いて最優秀賞を受賞いたしました。
診療を始め全セクションが持てる知
恵を出し合った結果、褥瘡の完治につ
ながった事例の発表を行いました。
毎年研究発表に携わる中、テーマ
の選定発表内容の作成に苦労致し
ますが、皆の助けを借り、実践した
結果が今回の受賞に結びついたもの
と思います。これからも力を合わせ
頑張っていきたいと思えます。



バザーのお礼

盛夏号でお知らせしました通り、
今年度も同援各施設では、それぞ
れ趣向を凝らし盛況にバザーを開
催することが出来ました。
皆様方のご協力、ご寄付は法人各
施設の設備や建物改修等に活用さ
せていただく予定です。
寄せられました皆様方のご厚情
に対しまして深く感謝申し上げます。
今後とも地域の皆様方にご支
援いただけるように努めてまいりま
す。ありがとうございました。



雑感

城砦跡を探访して歩くのが好きで
ある。北のシャシから南のグスクま
で、呼び名も場所によって様々で国
内には大小合わせて三万ヶ所はある
と言われていた。城砦跡に佇むと、
四季折々によって眺めも変化に富み
絶景が多いのも魅力である。これら
全ての城砦跡を訪ね歩くことは至難
なこと、叶わぬ夢かもしれない。
しかし、直に観て触れたい思いが
ある。行く先々での土塁や堀跡、石
垣、石塁、人との出会い等は何故か
心躍り感動する。

休日を使って古城跡を巡る小旅
は、私の三十数年前から今だ変わら
ず続けている唯一の趣味である。さ
て、出会いを求めて次回は何処へ行
こうかな。
(栗原 記)

― 表紙の写真 ―

「河口湖」
(南山 京子 氏)

平成二十六年一月十五日 発行
東京都新宿区原町三の八
電話 〇三(三三四一)七六一
社会福祉法人 財団法人 東京都同胞援護会
発行者 牧 野 洋 一
印刷所 東京都同胞援護会事務局
東京都千代田区外神田一―一五